

## ② 部活動中のけんかに対する指導について保護者から抗議された。

部活動中にけんかが発生した。学年の教師で手分けをして関係生徒や目撃した生徒から聞き取りを行い、概要を把握した上で、関係した生徒それぞれに指導を行った。

きっかけをつくった生徒については、1週間の部活動禁止を言い渡した。本人も教師の指導に従い、部活動禁止についても納得した。

翌日、この保護者から「なぜうちの子供だけが部活動禁止になるのか。大会前の大事な時期なので、レギュラーから落ちてしまう。」と電話が入った。学校としては今回の事件を重くとらえていて、本来ならば大会参加も辞退させるところだが、これまで頑張ってきたことを踏まえて、1週間の禁止で済ませようと考えていることを伝えただが、保護者は納得しなかった。

「これだけお願いしてもだめということで、学校には大変失望している。今回の件について、他の保護者にも知っておいていただきたいので、次の学年保護者会で質問をさせていただく。」と言い、電話が切られてしまった。

暴力行為は、他の生徒に与える影響が大きく、学校としても毅然とした指導を行う必要があります。理由はどうあれ、騒ぎを起こした生徒に対して、何らかの反省を促し、再発の防止につなげる指導を行います。

本事例では、本人が納得の上での指導であるにもかかわらず、保護者からの苦情が入ってきました。さらには、保護者会で質問するという言葉に学校は困惑しています。

### ヒント1 保護者の過激な発言の裏にある素朴な本音に迫る。

- ・ 保護者は本当に保護者会で質問したいのでしょうか。電話でのやり取りでは表情は見えません。保護者の本音に迫るためにも、学校にいらしていただくか、家庭訪問をして、保護者から話を十分聴く時間を取ります。
- ・ 本人が納得したから大丈夫だろうと、学校は保護者への説明を丁寧に行っていませんでした。保護者との話合いの冒頭に、学校からの事情説明が不足していたことについてお詫びをする必要があります。
- ・ 生活指導は罰を与えるものではなく、本人が自分の行動を反省し、将来よりよい方向へ進んでいくためにしていることを丁寧に説明します。
- ・ そのために、一度言い渡した内容について変更はできないが、そのことで保護者が一番心配していることが何かを丁寧に聞き取ります。

## ヒント2 子供が納得することを重視する。

- ・ この事例では、生徒が素直に自分が原因をつくったことを認め、教師の指導に従い、部活動禁止を受け入れようとしています。
- ・ これは、事案が発生した直後に、関係生徒から聴き取りを丁寧に行い、関係生徒も納得した上で学校としての事実確認ができているからです。
- ・ 学校としても単に罰を与えたり、懲らしめたりするのではなく、反省を促し新たな気持ちで部活動に復帰させることを目指しています。
- ・ レギュラーから外されるかもしれないが、試合に出る望みはあることを生徒は受け入れています。保護者が生徒以上に感情を乱されています。学校としては、生徒の意思確認を最大限尊重し、生徒の努力を期待します。

## ヒント3 保護者会で話題にすることの是非について共に考える。

- ・ 学校としては、本件は当該の生徒同士のトラブルであり、他に広がる恐れはなく、具体的な例については生徒のプライバシーにかかわることなので、全体に公表するものではないと考えています。
- ・ 保護者会で質問することは止められませんが、他の保護者にこのことが知らされたり、うわさになったりすることで、生徒全体に影響が出ることが心配です。
- ・ 学校としての懸念事項を伝えながら、今回の例を話題にすることの影響について保護者の考えを伺います。その一方で、質問された場合を想定して説明できるように準備しておきます。

### 【学校の対応とその後の状況】

- ・ 生徒は予定通り、1週間の部活動禁止を受け入れた。この間、自主的に校庭を走ったり、筋力トレーニングを行ったりするなど、一人で黙々と体を動かす姿が見られた。
- ・ 禁止期間がとけ、部活動に無事復帰し、大会に向けての練習に合流できた。その結果、レギュラーとして試合に出ることができた。
- ・ 保護者会には当該の保護者は出席しなかったため、この件に関することは話題に上らなかった。その後保護者の理解が得られた。